

# 野尻(4) 遺跡

## 発掘調査報告書

平成 19 年度

青森市教育委員会

青森市埋蔵文化財調査報告書 第95集

# 野尻(4)遺跡

発掘調査報告書

平成19年度

青森市教育委員会

## 序

平成17年4月に旧青森市と旧浪岡町との合併により市内の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が約400ヶ所となりました。

今回、調査した野尻（4）遺跡は、浪岡地区に所在する平安時代の集落遺跡であり、倉庫建設工事に先立ち、建設予定地内について発掘調査を実施しました。その結果、平安時代の竪穴状造構2基、土坑5基、小ピット9基、溝状造構4条、該期の遺物等が検出されました。

本書は、このたびの発掘調査成果をまとめたものであり、今後の埋蔵文化財保護ならびに調査・研究の一助となれば幸いです。

本書の刊行にあたり、調査委託者であります株式会社大進建設をはじめ、関係機関および関係各位のご理解とご協力に深く感謝いたします。

平成20年3月

青森市教育委員会

教育長 角田 詮二郎

## 例　　言

1. 本書は、株式会社大進建設から青森市教育委員会が委託を受けて発掘調査を実施した野尻(4)遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書に記載される内容は、株式会社大進建設が計画した倉庫建設工事に係る発掘調査成果をまとめたものである。
3. 本遺跡は、青森市浪岡大字徳才子字山本に所在し、青森県埋蔵文化財包蔵地台帳では遺跡番号29063として登録されている。
4. 本書の執筆ならびに編集は、青森市教育委員会が行った。執筆分担は各文末に記した。
5. 出土遺物および記録図面、写真関係資料は青森市教育委員会が保管している。
6. 引用・参考文献は巻末にまとめた。
7. 発掘調査および報告書の作成にあたって、次の各機関・各位からご指導・ご協力を賜った。記して謝意を表する次第である。

青森県教育庁文化財保護課、青森市史編さん室、株式会社大進建設、木村浩一、北林八洲晴、工藤清泰

## 凡　　例

1. 図版番号および表番号、写真番号は本書を通じて連続するものとし、「第〇図」、「第〇表」、「写真〇」とした。
2. 遺構の略称は、SI=竪穴状遺構、SK=土坑、SP=小ビット、SD=溝状遺構とした。また、遺物図版には括弧内に出土遺構あるいは出土グリッドを明記した。
3. 図中・文中で使用したアルファベットを用いた略称は、以下の通りである。  
P…土器 LB…ロームブロック B-Tm…白頭山-苔小牧火山灰
4. 図版の縮尺は各図毎に示した。また、写真図版の縮尺は統一していない。
5. 土層の注記は『新版標準土色帳』(小山正忠・竹原秀雄1993)に準拠した。
6. 遺物実測図・遺物写真図版の縮尺は、1/3である。
7. 図中で使用したスクリーントーンは以下の通りである。なお、須恵器断面は黒ベタで示した。



# 目 次

序

例言・凡例

目次

図表・写真目次

第Ⅰ章 調査の概要 .....	1
第1節 調査に至る経緯 .....	1
第2節 調査要項 .....	1
第3節 調査方法 .....	3
第4節 調査経過 .....	3
第Ⅱ章 遺跡の環境 .....	4
第1節 過去の調査 .....	4
第2節 基本層序 .....	5
第Ⅲ章 検出遺構と出土遺物 .....	7
第1節 竪穴状遺構 .....	7
第2節 土坑 .....	10
第3節 小ピット .....	12
第4節 溝状遺構 .....	18
第5節 遺構外出土遺物 .....	22
まとめ .....	24
引用・参考文献 .....	24
写真図版 .....	25
報告書抄録 .....	

## 図表・写真目次

### 図版

第1図 遺跡の位置	2
第2図 グリッド設定図	3
第3図 過去の調査区	4
第4図 基本層序	5
第5図 遺構配置図	6
第6図 竪穴状遺構	8
第7図 SI-01出土土器	9
第8図 SI-01・02出土土器	10
第9図 SI-02出土土器	11
第10図 土坑	13
第11図 SK-04出土土器	14
第12図 SK・SD出土土器	15
第13図 SD・遺構外出土土器	16
第14図 小ピット	17
第15図 溝状遺構(1)	19
第16図 溝状遺構(2)	20
第17図 溝状遺構(3)	21

### 表

第1表 周辺の遺跡	2
第2表 出土遺物観察一覧	23

### 写真図版

写真1 検出遺構(1)	26
写真2 検出遺構(2)	27
写真3 検出遺構(3)	28
写真4 検出遺構(4)	29
写真5 出土遺物(1)	30
写真6 出土遺物(2)	31
写真7 出土遺物(3)	32
写真8 出土遺物(4)	33

# 第Ⅰ章 調査の概要

## 第1節 調査に至る経緯

平成18年10月30日、青森市教育委員会文化財課に青森市浪岡大字徳才字山本の倉庫建設工事に係る「埋蔵文化財（遺跡）等協議書」が株式会社大進建設より提出された。遺跡の位置関係を照合した結果、建設予定地が野尻（4）遺跡（青森県埋蔵文化財包蔵地台帳番号29063）に該当していることが明らかとなり、平成18年11月16日に発掘調査の要否を目的に確認調査を実施した。確認調査は建設予定地内に任意のトレンチを8ヶ所（調査面積52m<sup>2</sup>）設定し、重機による掘削および鏝簾掛けを行った。調査の結果、予定地全体に砂利・シラスが盛土されていたが、西側に設定したトレンチ3ヶ所より、平安時代と考えられる竪穴状遺構1基、土坑1基、溝状遺構1基を確認した。また、平成19年度には当初の事業用地が拡張されるのを受け、6月15日に拡張部分の確認調査を実施した（調査面積24m<sup>2</sup>）。確認調査結果を受けて、事業者と協議し、平成19年7月12日～8月9日の日程で発掘調査を実施することとした。

## 第2節 調査要項

### 1. 調査の目的

倉庫建設工事に先立ち、予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図り、地域における文化財の活用に資する。

### 2. 遺跡名および所在地

野尻（4）遺跡（青森県埋蔵文化財包蔵地台帳番号 29063）

青森市浪岡大字徳才字山本105-2・3

3. 発掘調査期間 平成19年7月12日～平成19年8月9日

4. 調査面積 524m<sup>2</sup>

5. 調査委託者 株式会社大進建設

6. 調査受託者 青森市

7. 調査担当機関 青森市教育委員会事務局文化財課

8. 調査指導機関 青森県教育庁文化財保護課

9. 調査体制 調査事務局 青森市教育委員会

教育長 角田詮二郎 文化財主事 小野 貴之

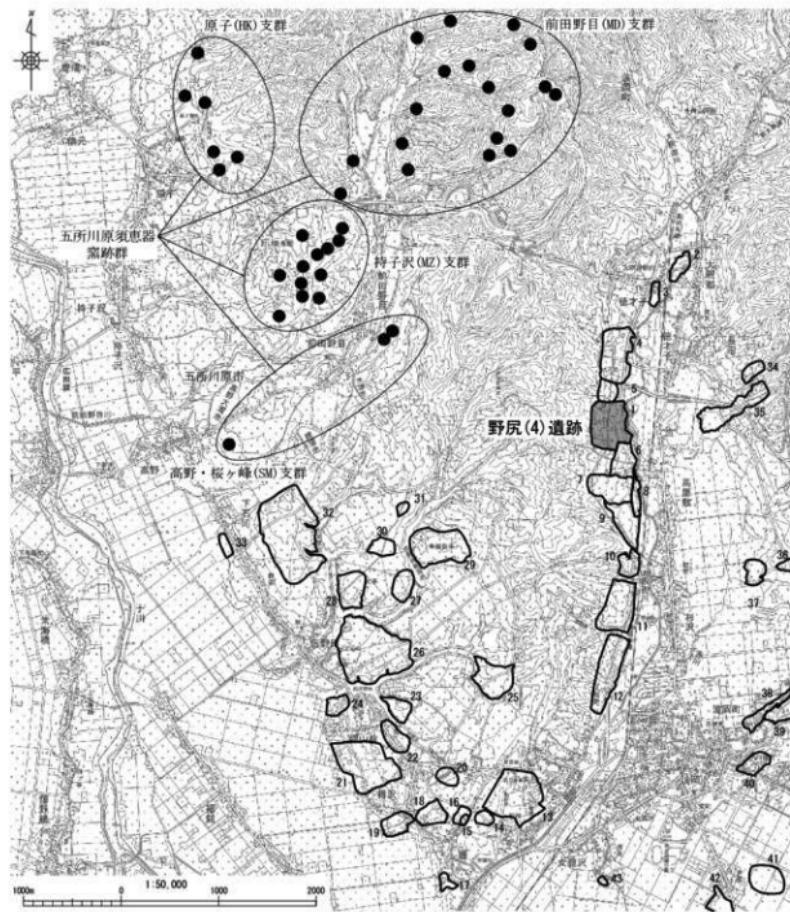
教育部長 古山 善猛 " 児玉 大成（調整担当）

次長 相馬 政美 " 設楽 政健（調査担当）

文化財課課長 遠藤 正夫 主事 吹田 夕貴（庶務担当）

主任幹 藤村 和人 " 竹ヶ原亜希

文化財主査 木村 淳一 埋蔵文化財調査員 野坂 知広



第1図 遺跡の位置 ※4頁参照

第1表 周辺の遺跡

番号	遺跡番号	遺跡名	地図	時代	番号	遺跡番号	遺跡名	地図	時代
1	29005.1	野尻(4)遺跡	城垣跡	中世	23	29009	城内裏跡	散在地	平安
2	29045	大野田遺跡	城垣跡	中世	24	29010	小原遺跡	散在地	縄文
3	29001	前田目遺跡	散在地	平安	25	29070	城内上野遺跡	散在地	縄文, 平安
4	29061	持子沢遺跡	散在地	平安	26	29003	城内御殿跡	散在地	平安
5	29060.2	野尻(1)遺跡	散在地	平安, 縄文	27	29005	旭(1)遺跡	散在地	平安
6	29060.3	野尻(2)遺跡	散在地	平安	28	29006	渋間鬼丸遺跡	散在地	縄文
7	29060.2	野尻(3)遺跡	散在地	平安, 中世	29	29059	寺町御平遺跡	散在地	平安
8	29060.4	山川(1)遺跡	散在地	平安	30	29060	寺町御平遺跡	散在地	平安
9	29060.5	山川(2)遺跡	散在地	平安, 縄文	31	29004	下平遺跡	散在地	平安
10	29055	山川(3)遺跡	散在地	平安	32	29072	下石川平野遺跡	散在地	縄文, 平安
11	29061	中野(山元)(4)遺跡	散在地	中世	33	29067	門田遺跡	散在地	平安
12	29062	中野(山元)(5)遺跡	散在地	平安, 縄文	34	29068	松原野山遺跡	散在地	平安
13	29014	前山地遺跡	散在地	平安	35	29067	松原野山遺跡	散在地	平安
14	29055	800m遺跡	散在地	平安	36	29065	小原城裏北面遺跡	散在地	縄文
15	29055	城垣跡	城垣跡	中世	37	29065	小原城裏西面遺跡	散在地	平安
16	29065	城内裏遺跡	散在地	平安	38	29073	奥河原遺跡	散在地	平安, 平安
17	29064	城内裏遺跡	散在地	平安	39	29090	渋間城跡	城跡	中世
18	29012	神代宮遺跡	散在地	平安, 縄文	40	29090	川原跡	城跡	中世
19	29020	中野(山元)遺跡	散在地	平安	41	29027	川原遺跡	散在地	平安
20	29020	中野(山元)遺跡	散在地	平安	42	29028	中野(山元)遺跡	散在地	平安
21	29071	朝山的村大字遺跡	散在地	平安	43	29088	西原(1)遺跡	散在地	縄文, 平安
22	29011	上野遺跡	散在地	縄文, 平安					

### 第3節 調査方法

調査区は遺跡範囲内の北側にあたり、ほぼ南北に細長い形状を呈している。グリッドは公共座標に基づいた任意の起点から、調査区全体が網羅されるように $4 \times 4\text{m}$ で設定した（第2図）。グリッドの呼称は、東側に向かってA、B、C、D・・・の順にアルファベット、南側に向かって1、2、3、4・・・の順に算用数字を付し、両者の組み合わせで示した。測量原点は、付近に適当な基準点が存在しなかつたため、旧国道7号線沿いの水準点（標高38.09m）より移動を行った。

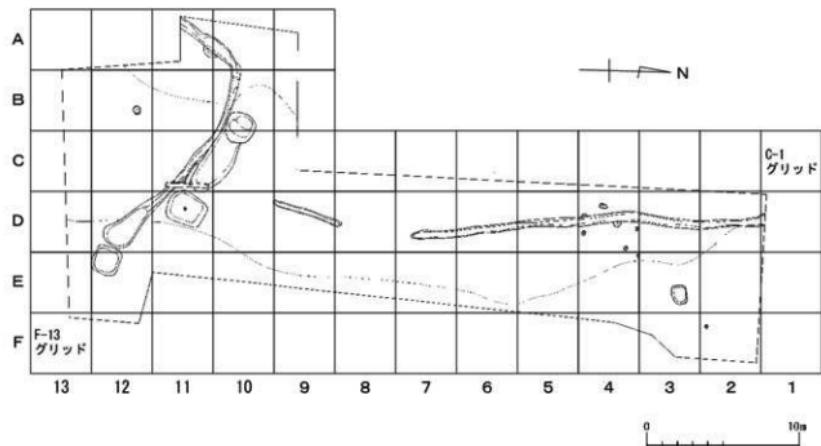
発掘調査は、前年度および今年度の確認調査における遺構確認面（地山ローム層）まで重機で慎重に表土を剥ぎ取り、確認された遺構について順次精査していく方法をとった。遺構精査は、竪穴状遺構・土坑では4分法または2分法、小ピットでは2分法を用いて、溝状遺構では任意に層序観察ベルトを設定して断面図を作成した。平面図は簡易造り方測量とトータルステーションを併用して作成し、縮尺は原則として20分の1とした。写真は遺構確認状況、土層断面、完掘状況、遺物出土状況を主に撮影し、デジタルカメラを使用し

た。

### 第4節 調査経過

平成19年7月12日、発掘調査開始。重機による遺構確認面までの掘削を行い、その後、鋤籠がけにより遺構確認を行った。その結果、竪穴状遺構2基・土坑5基・小ピット9基・溝状遺構4条を検出し、調査区北側から順に遺構精査を実施した。8月9日に全ての作業を終了し、機材・プレハブ等を撤収した。

（設楽 政健）



第2図 グリッド設定図

## 第Ⅱ章 遺跡の環境

### 第1節 過去の調査

野尻(4)遺跡は、青森県青森市浪岡大字徳才字山本地内に位置し、大駿迦川右岸の低位段丘上、標高50m内外の緩斜面に占地する集落遺跡である。現在、遺跡のある前田野目台地東縁は果樹園などに利用されており、大駿迦川流域の低地では水田耕作が行われている。本遺跡周辺には、北から順に山本遺跡、野尻(1)遺跡、本遺跡、野尻(2)遺跡、野尻(3)遺跡、高屋敷館遺跡、山元(1)遺跡、山元(2)遺跡と、ほぼ同時期の集落遺跡が集中している。また、前田野目台地西縁には五所川原須恵器窯跡群（9世紀後半～10世紀後半）が分布し、本遺跡を含む集落遺跡群にも主体的に須恵器を供給していたものと推定されている（第1図参照）。

本遺跡においては平成6年（1994）に、国道7号浪岡バイパス建設に伴い、青森県教育委員会により発掘調査が実施され、縄文時代の土坑1基、溝状ピット（Tピット）4基、平安時代の外周溝を伴う建物跡41軒、掘立柱建物跡11棟、土坑86基、溝跡108跡、その他の遺構7基が検出された（青森県教育委員会1995a）。特に、集落全体を区切るように配置された区画溝と外周溝を伴う建物跡は特徴的である。調査区南側には幅4m内外の環濠を巡らす区域もあり、その性格・機能が注目されている。

平成12年から14年（2000～2002）にかけても、浪岡町大駿迦第3工業団地造成に伴い、旧浪岡町土地開発公社の委託を受けた大駿迦工業団地調査会により発掘調査が行われた（浪岡町教育委員会2004）。調査区域は約50,000m<sup>2</sup>という広範囲に及び、平安時代の外周溝を伴う建物跡278軒、掘立柱建物跡3棟、竪穴状造構32基、土坑1071基、井戸跡15基、耕作跡14基、焼土跡117基、小ピット562基、溝跡189条、円形周溝造構2基、埋設土器2基、炉跡状遺構1基、縄文時代の陥穴土坑（Tピット）3基が検出された。これらの調査により、本遺跡が9世紀後半～10世紀後半の約100年間にわたって継続された集落跡であることが推定された。



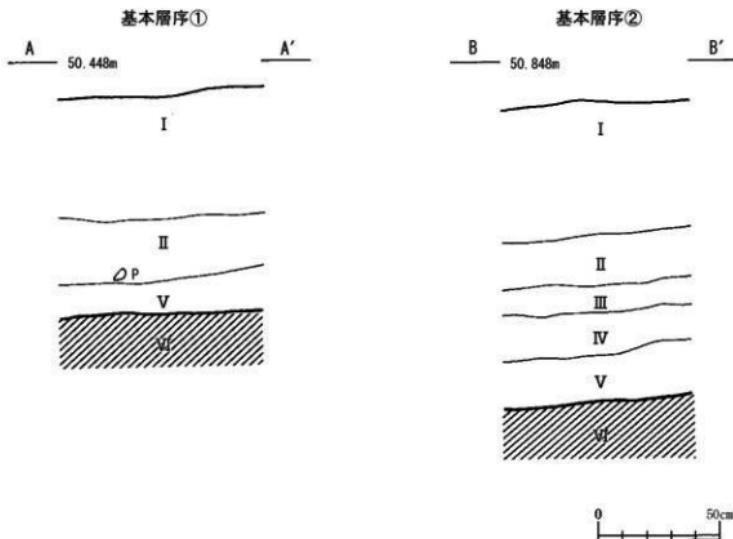
第3図 過去の調査区

## 第2節 基本層序

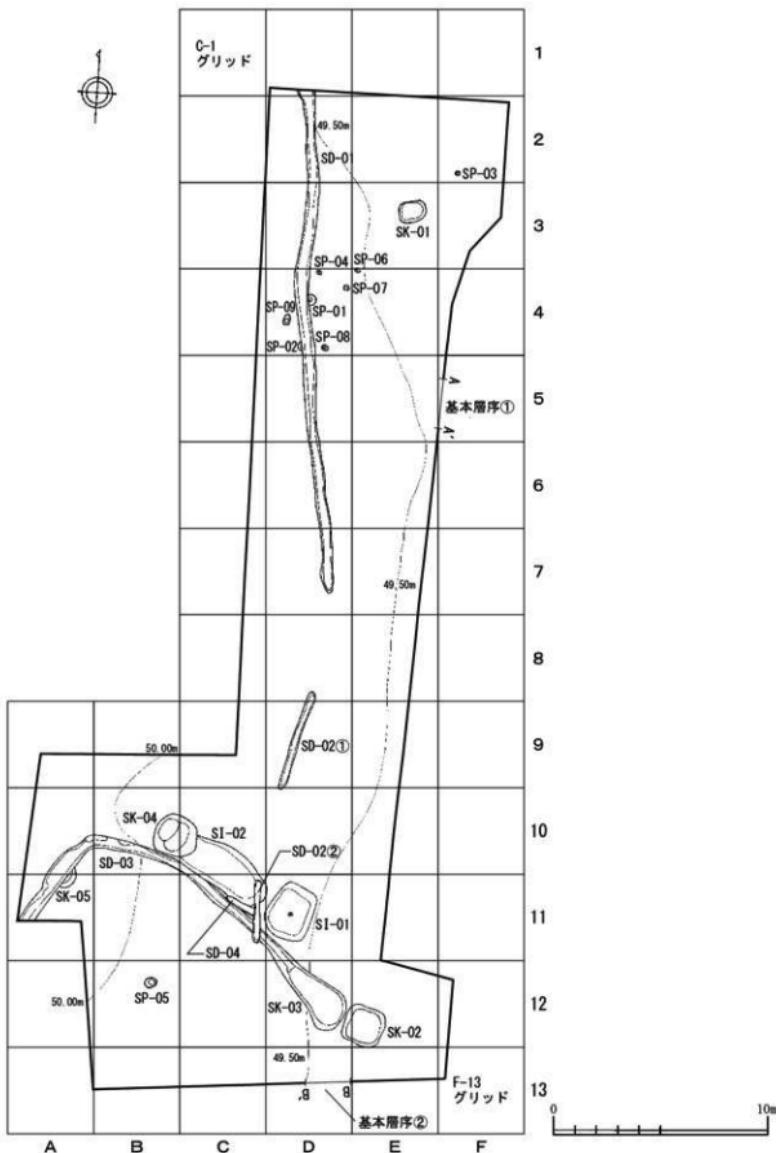
基本層序は、調査区東壁(F-5グリッド)と南壁(D-13グリッド)の2ヶ所で観察し、おおむね6層に分層された。表土(Ⅰ層)には現代の盛土である砂利・シラス層が厚く堆積しており、本来の自然表土はⅡ層に相当するものと思われる。表土剥ぎの段階で、地山ローム(VI層)まで掘り下げてしまったため、構造確認面はVI層上面ということになるが、実際の構造面はV層にあったと推定される。平成12年～14年にかけて実施された大糸町工業団地調査会の調査(浪岡町教育委員会2004)における基本層序Ⅰ層が本調査区Ⅱ層、Ⅱa層がⅢ層、Ⅱb層がⅣ層、Ⅱc層がⅤ層、Ⅲ層がVI層にそれぞれ対応する可能性が高いが、場所によつて土色には濃淡がある。

(野坂 知広)

I層：明黄褐色土 (10YR7/6)	表土砂利・シラス層
II層：黒 色 土 (10YR2/1)	砂利少量
III層：黒 褐 色 土 (10YR2/3)	バミス微量
IV層：黒 褐 色 土 (10YR3/2)	ローム粒 (径3～4mm) 微量
V層：黒 色 土 (10YR1.7/1)	ローム粒 (径3～4mm) 微量、土器混在
VI層：褐 色 土 (10YR4/4)	地山ローム層 (黄褐色に濃淡あり)



第4図 基本層序 (第5回に対応)



第5図 遺構配置図

## 第Ⅲ章 検出遺構と出土遺物

本調査において検出された遺構は、竪穴状遺構2基、土坑5基、小ビット9基、溝状遺構4条であった。以下、遺構毎に詳細を記すが、各遺構の帰属時期、すなわち出土遺物の所産時期は、過去の調査において示された年代観を参考に、主に土師器壺の底部・体部形態によって比定した。ロクロ成形で底部に回転糸切痕を持つものが主流であり、おむね器高に対して底径の大きなものを古相（9世紀後葉～末葉）、器高に対して底径が小さく底部から体部に向かって明瞭なくびれを持つものを新相（10世紀初頭～前葉）と捉えた。

東北北部における平安時代の土器編年は、いわゆる桜井第二形式（桜井清彦1958）を土台として、その変遷案・細分案が提示されており、近年は、さらに詳細な編年網の構築が期待されている。特に、遺跡数が急増する9世紀後半～10世紀前半は、五所川原須恵器の生産期間とも合致しており、本遺跡の主体時期に重なると思われる。

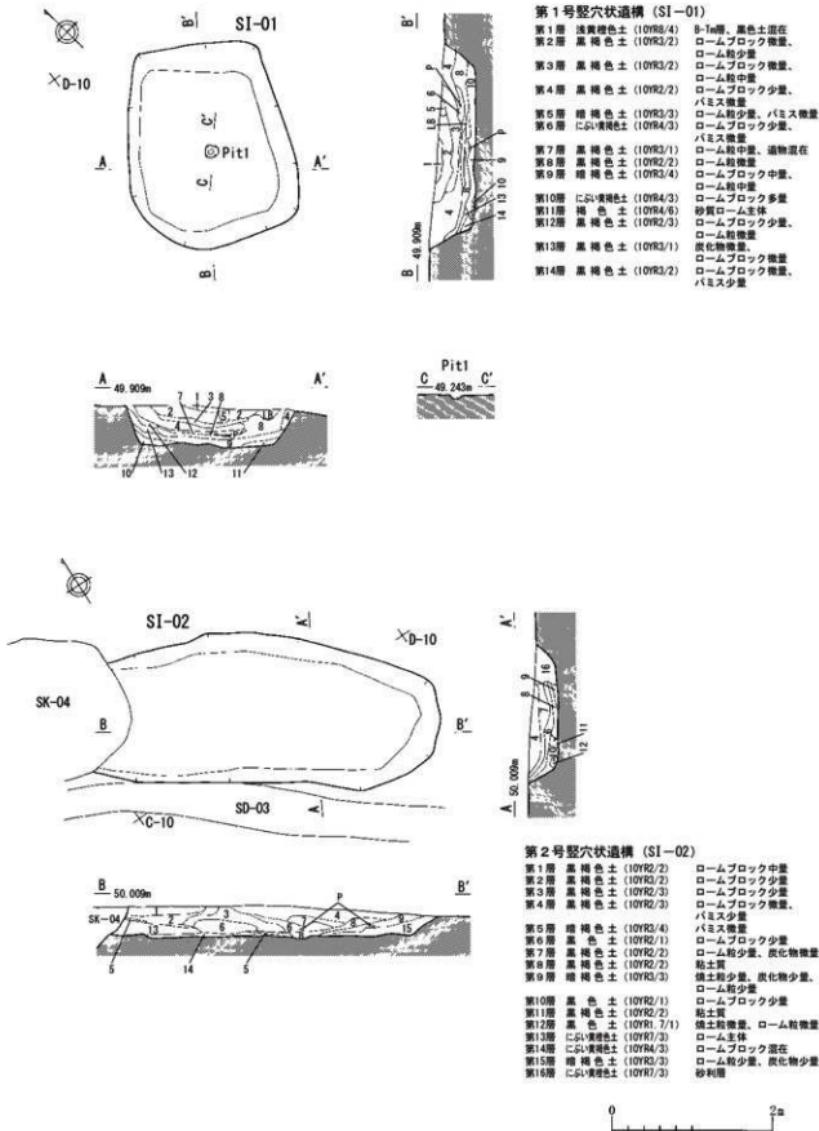
### 第1節 竪穴状遺構（S I）

#### 第1号竪穴状遺構・SI-01（第6図）

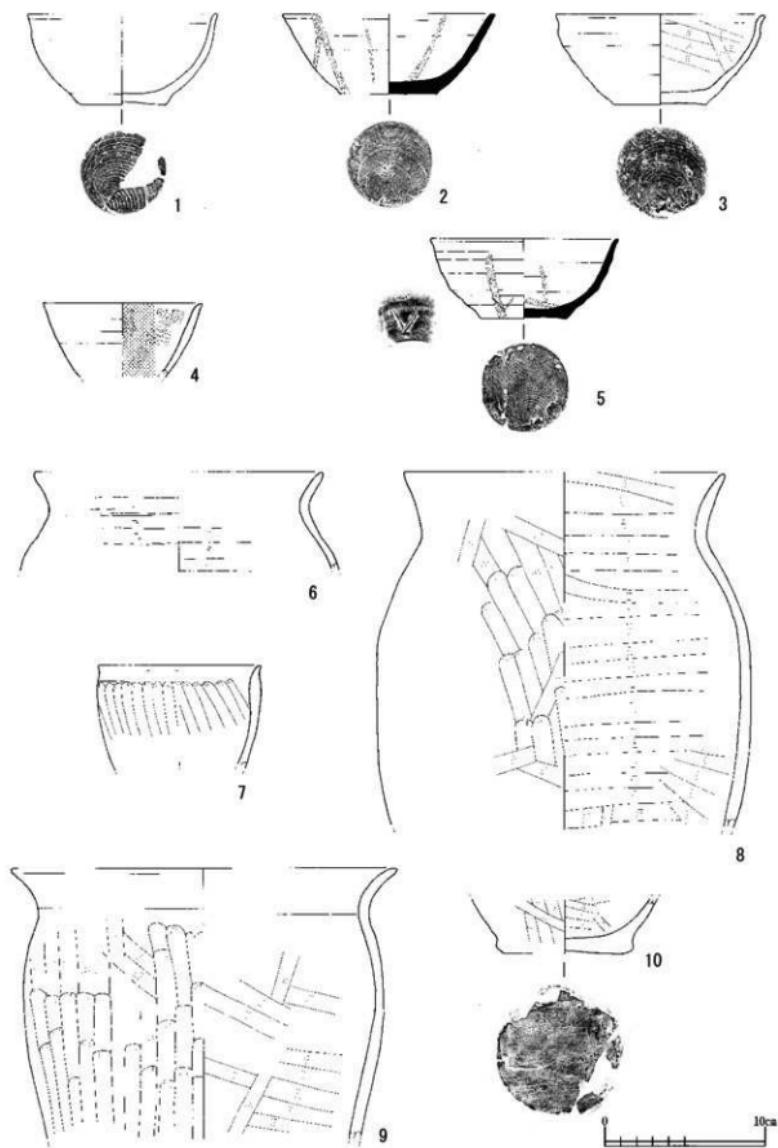
D-11グリッドに位置している。平面形は隅丸方形を呈しており、規模は長軸220cm×短軸190cm×深さ51cmを測る。確認面にはB-Tm火山灰が層状に確認できた。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は確認できなかった。壁高は東壁43cm、西壁47cm、南壁53cm、北壁40cmを測る。底面はやや起伏が見られ、底面中央よりやや東側から長軸18cm×短軸17cm×深さ7cmのビット（Pit 1）を検出した。堆積土は14層に分層した。黒褐色・暗褐色を主体とする土層が堆積している。堆積土中にはローム粒・ロームブロックが混入している。遺物は、土師器壺3点（第7図1・3・4）、土師器甕6点（第7図6～10、第8図2）、須恵器壺3点（第7図2・5、第8図1）が出土した。土師器壺のうち1点は内面黒色処理が施されており（第7図4）、須恵器壺の1点には「V」字状の刻書がある（第7図5）。本遺構の帰属時期は、出土土器・降下火山灰から9世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。

#### 第2号竪穴状遺構・SI-02（第6図）

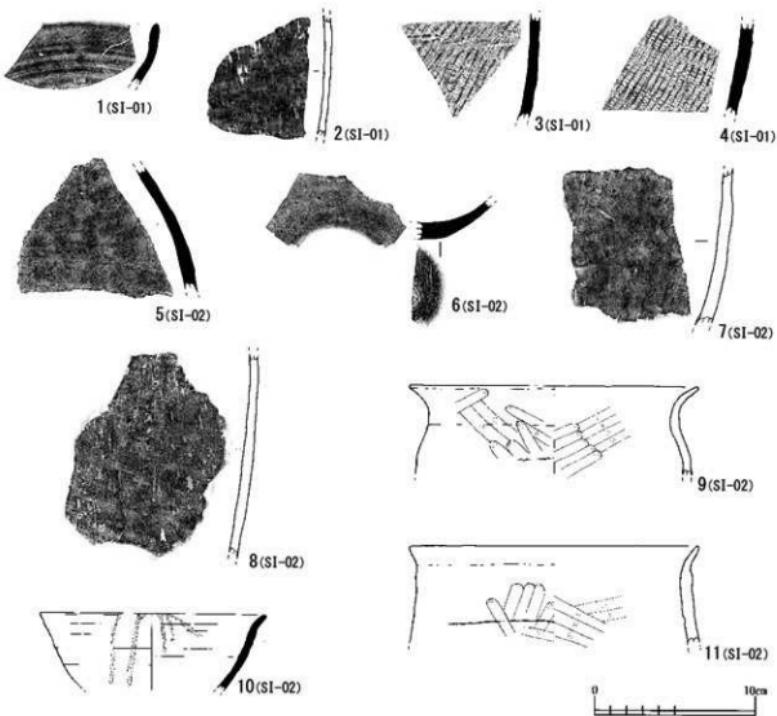
C-10・11グリッドに位置している。SK-04・SD-02②・SD-03・SD-04と重複しており、全て本遺構が古い。平面形は長楕円形を呈しており、規模は長軸420cm×短軸170cm×深さ23cmを測る。壁面はゆるやかな傾斜で立ち上がる部分とほぼ垂直に立ち上がる部分が見られ、壁溝は確認できなかった。壁高は東壁26cm、南壁35cm、北壁25cmを測る。西壁はSK-04によって切られているため不明である。底面はほぼ平坦である。堆積土は16層に分層した。黒褐色・黒色を主体とする土層が堆積している。堆積土中にはロームブロックやローム粒・炭化粒が混入している。遺物は、土師器壺5点（第9図1～4・7）、土師器甕10点（第8図7～9・11、第9図5・6・8～11）、須恵器壺2点（第8図6・10）、須恵器甕1点（第8図5）、須恵器甕2点（第8図3・4）が出土した。土師器壺のうち1点は内面黒色処理が施されており（第9図3）、土師器甕のうち1点はロクロ成形である（第9図5）。本遺構の帰属時期は、出土土器から9世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。



第6図 穫穴状造構



第7図 SI-01出土土器



第8図 SI-01・02出土土器

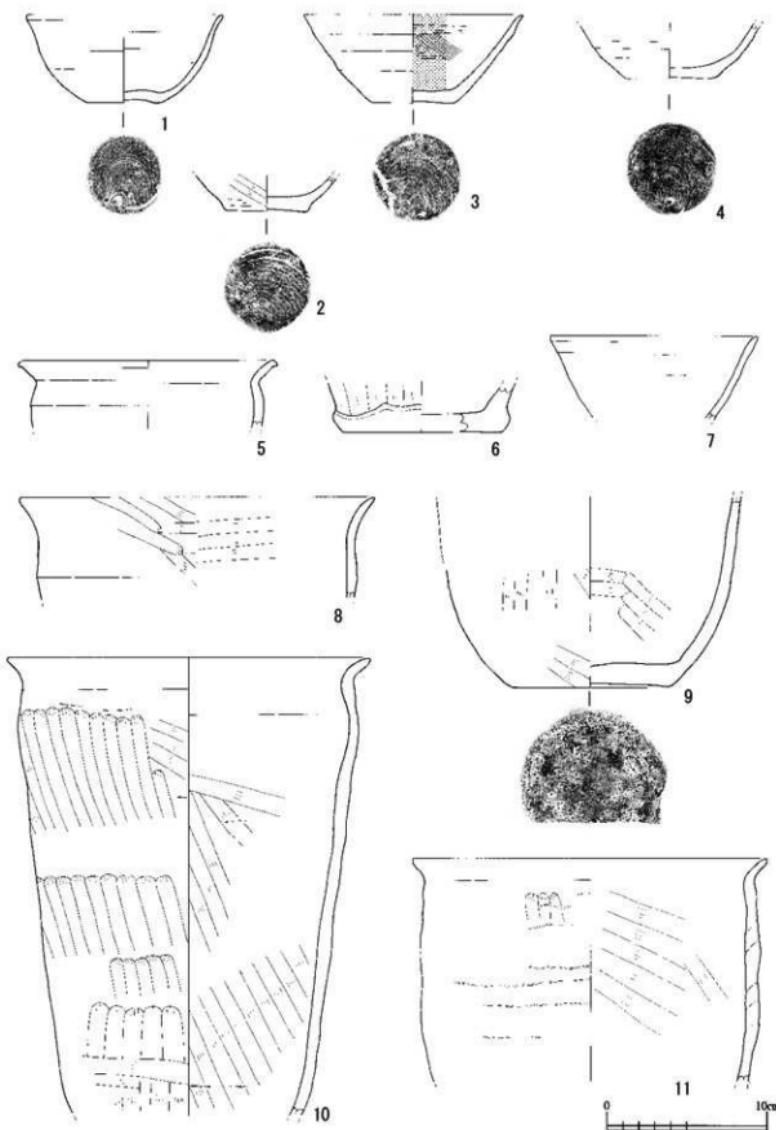
## 第2節 土坑（SK）

### 第1号土坑・SK-01（第10図）

E-3グリッドに位置している。平面形は隅丸方形を呈しており、規模は長軸116cm×短軸100cm×深さ18cmを測る。壁面はゆるやかに立ち上がり、底面にはやや起伏が見られる。堆積土は4層に分層した。黒褐色を主体とする土層が堆積しており、ローム粒・ロームブロックが混入している。遺物は、土師器甕2点（第12図1・2）が出土した。第12図1は土師器壺の可能性があり、第12図2の底部内面には製作者の爪痕、あるいは調整工具と思しき痕跡が二ヶ所観察される。

### 第2号土坑・SK-02（第10図）

D-E-12グリッドに位置している。平面形は隅丸方形を呈しており、規模は長軸183cm×短軸181cm×深さ34cmを測る。壁面はゆるやかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層した。黒褐色を主体とする土層が堆積しており、焼土粒・炭化物・ロームブロックが混入している。遺物は、土師器甕



第9図 SI-02出土土器

2点（第12図3・4）が出土した。

#### 第3号土坑・SK-03（第10図）

D-12グリッドに位置している。SD-03と重複しており、本遺構が新しい。平面形は不整形を呈しており、規模は長軸330cm×短軸180cm×深さ30cmを測る。壁面はゆるやかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。堆積土は7層に分層した。黒褐色土を主体とする土層が堆積しており、焼土粒・ローム粒・ロームブロックが混入している。遺物は、土師器壺の底部破片1点（第12図5）と須恵器長頸壺の口頸部破片1点（第12図6）が出土した。須恵器長頸壺口頸部には「森」と刻書が施されている。

#### 第4号土坑・SK-04（第10図）

B・C-10グリッドに位置している。SI-02と重複しており、本遺構が新しい。平面形は不整円形を呈しており、規模は長軸201cm×短軸183cm×深さ73cmを測る。壁面は東壁のみゆるやかに立ち上がり、他はほぼ垂直に立ち上がる。底面には部分的に起伏が見られる。堆積土は13層に分層した。黒褐色・黒色を主体とする土層が堆積しており、ローム粒・ロームブロックが混入している。遺物は、土師器壺1点（第12図9）と土師器甕2点（第12図7・8）、須恵器甕6点（第11図1～6）が出土した。

#### 第5号土坑・SK-05（第10図）

A-10・11グリッドに位置している。SD-03と重複しており、本遺構が古い。平面形はSD-03に切られているため全容は不明であるが、楕円形と考えられる。残存部分の規模は、長軸103cm×短軸47cm×深さ17cmを測る。壁面はゆるやかに立ち上がり、底面は丸みを帯びている。堆積土は1層である。砂利を多量に含む暗褐色土が堆積している。遺物は出土しなかった。

（設楽 政健）

### 第3節 小ピット（SP）

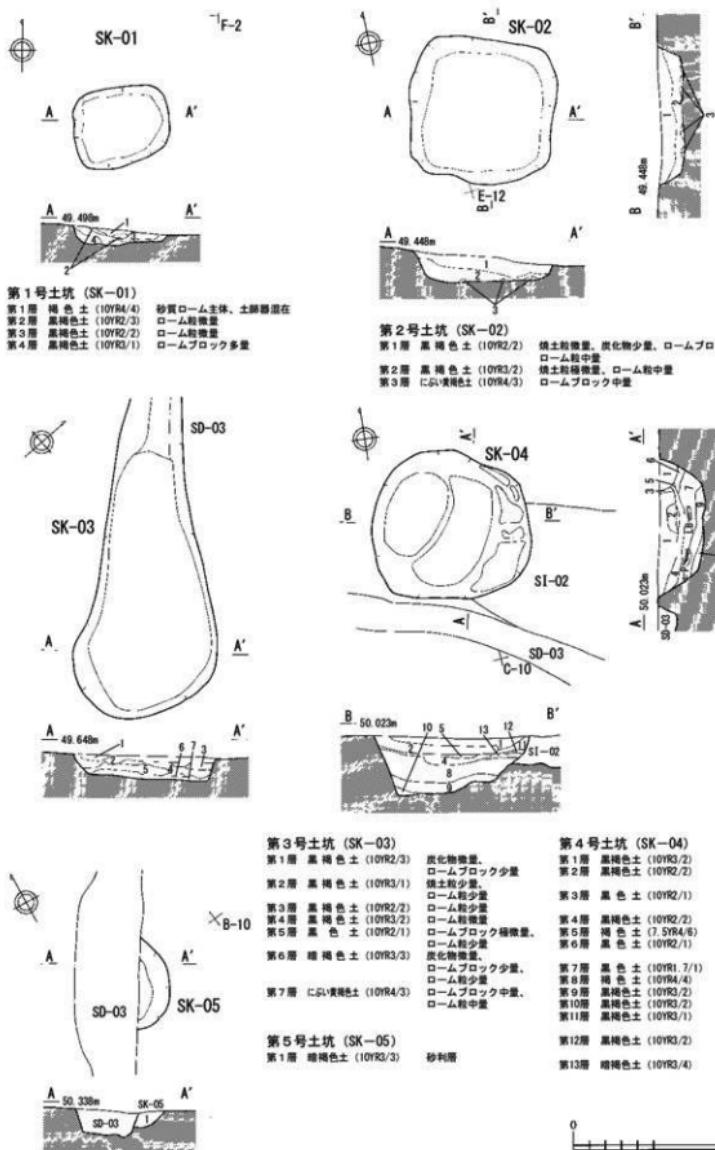
本調査においては柱穴状の小ピットを9基検出した。特に、SP-01・02・04・06～09は一区域に集中しており、掘立柱建物跡など何らかの構造物の痕跡とも考えられたが、明確な配列は確認されなかった。

#### 第1号小ピット・SP-01（第15図）

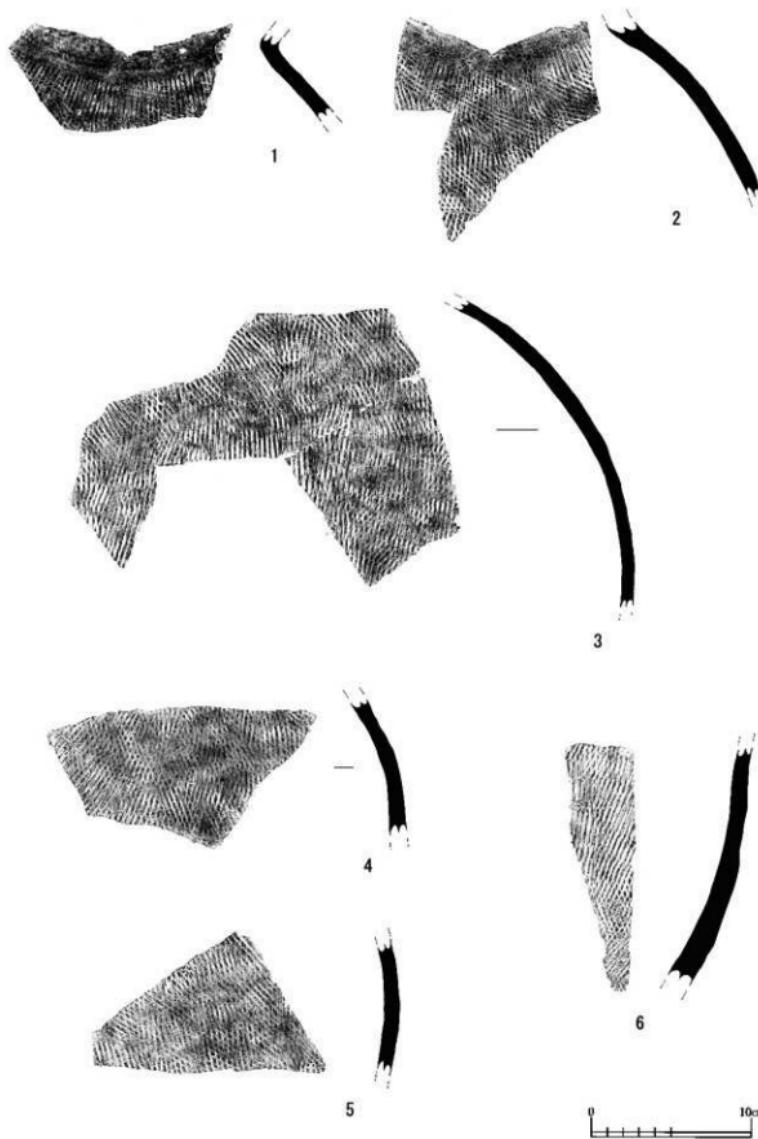
D-4グリッドに位置する。SD-01に切られているが、平面形はおおむね隅丸方形を呈すものと思われる。長軸36cm×短軸31cm×深さ16cmを測り、壁面は急角度に立ち上がる。出土遺物はなく、その帰属時期は不明である。

#### 第2号小ピット・SP-01（第15図）

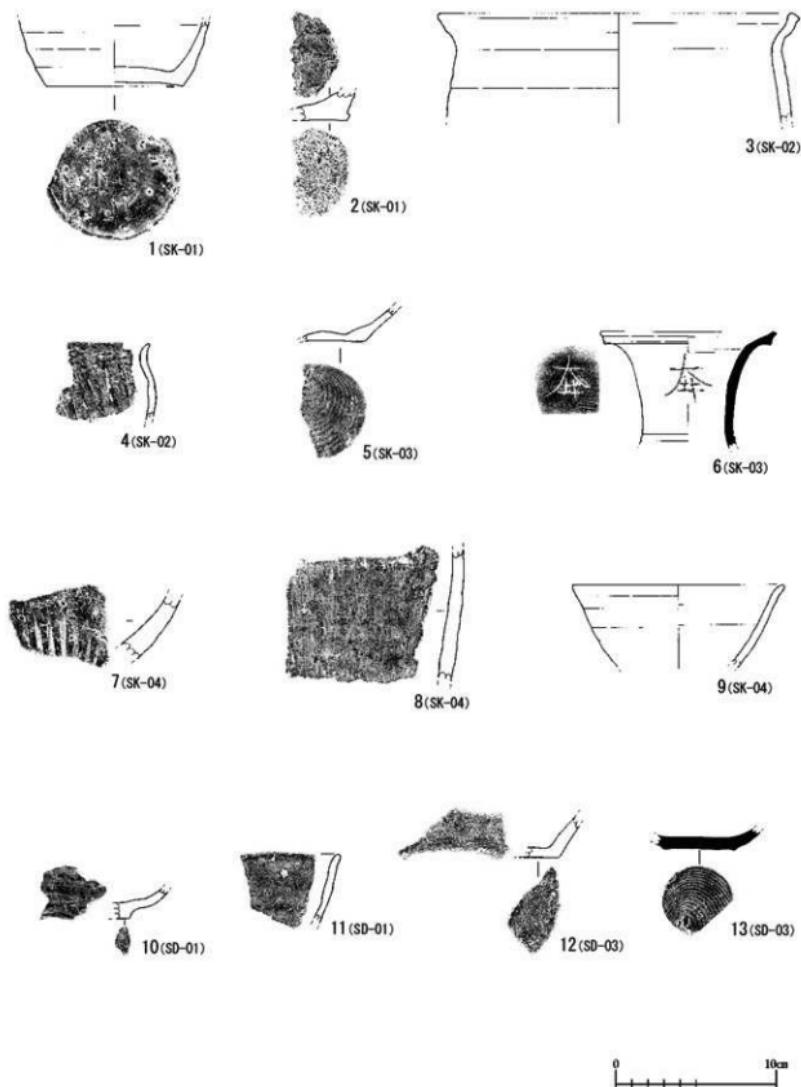
D-4グリッドに位置する。SD-01に切られているが、平面形は隅丸方形を呈す。長軸31cm×短軸20cm×深さ16cmを測り、壁面は急角度に立ち上がる。出土遺物はなく、帰属時期はSP-01同様、不明である。



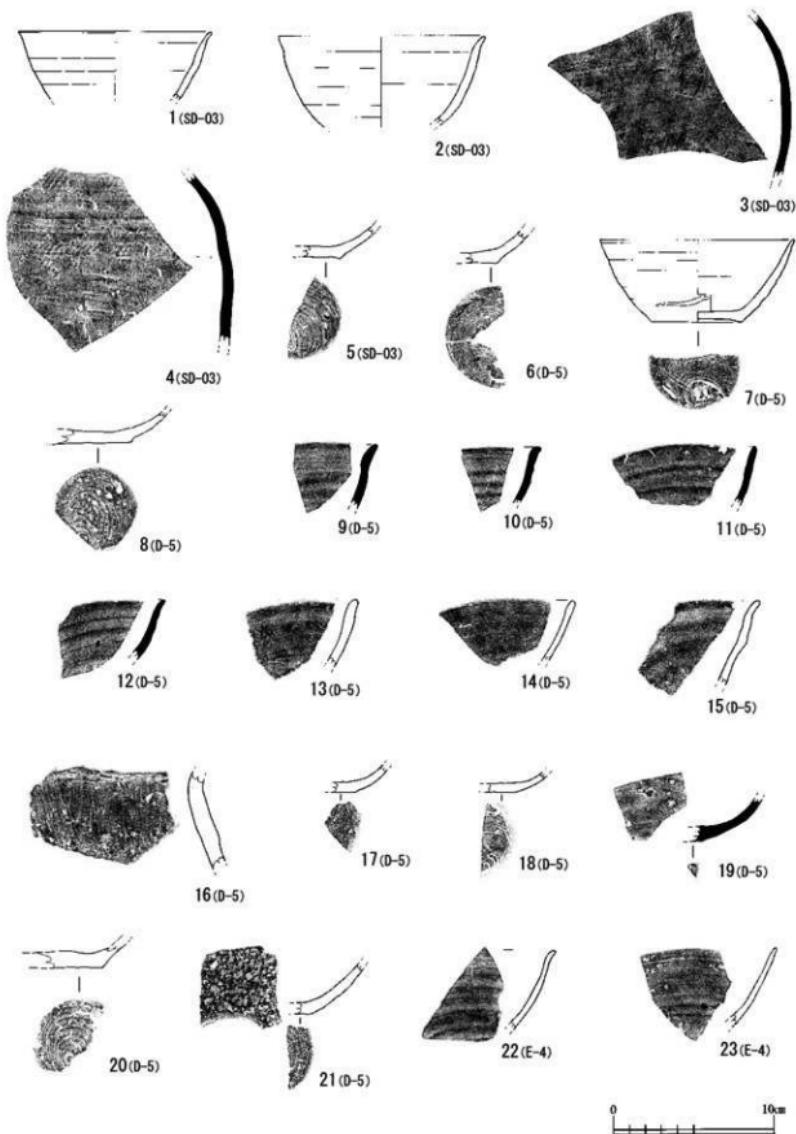
第10図 土坑



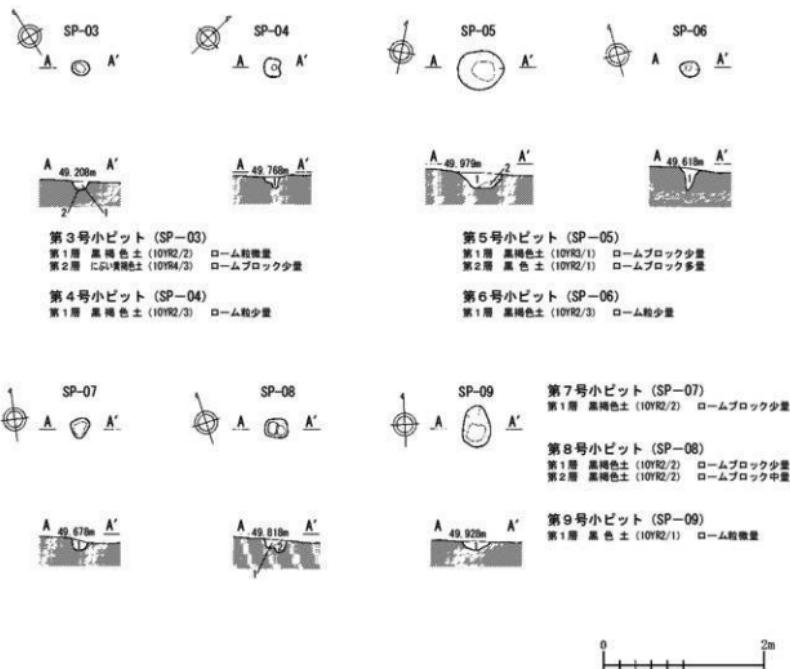
第11図 SK-04出土土器



第12図 SK・SD出土土器



第13図 SD・遺構外出土土器



第14図 小ビット

**第3号小ビット・SP-03 (第14図)**

F-2グリッドに位置し、平面形はおおむね楕円形を呈す。長軸22cm×短軸18cm×深さ11cmを測り、壁面は急角度に立ち上がる。出土遺物はなく、その帰属時期は不明である。

**第4号小ビット・SP-04 (第14図)**

D-4グリッドに位置し、平面形は不整形を呈す。長軸22cm×短軸19cm×深さ13cmを測り、壁面は二段となる。出土遺物はなく、その帰属時期は不明である。

**第5号小ビット・SP-05 (第14図)**

B-12グリッドに位置し、平面形はおおむね楕円形を呈す。長軸57cm×短軸49cm×深さ19cmを測り、壁面はややゆるやかに立ち上がる。出土遺物はなく、その帰属時期は不明である。SD-03に開まれたような場所にあるため、外周溝を伴う建物跡に関するビットかとも思われたが、周囲に遺構プランは確認されず、詳細は不明である。

#### 第6号小ピット・SP-06（第14図）

E-4グリッドに位置し、平面形は不整円形を呈す。長軸22cm×短軸18cm×深さ26cmを測り、壁面は急角度に立ち上がる。出土遺物はなく、その帰属時期は不明である。

#### 第7号小ピット・SP-07（第14図）

D-4グリッドに位置し、平面形は不整形を呈す。長軸24cm×短軸20cm×深さ12cmを測り、壁面は急角度に立ち上がる。出土遺物はなく、その帰属時期は不明である。

#### 第8号小ピット・SP-08（第14図）

D-4グリッドに位置し、平面形は隅丸長方形を呈す。長軸30cm×短軸22cm×深さ15cmを測り、壁面は二段となる。出土遺物はなく、その帰属時期は不明である。

#### 第9号小ピット・SP-09（第14図）

D-4グリッドに位置し、平面形は不整長椭円形を呈す。長軸51cm×短軸35cm×深さ11cmを測り、壁面はゆるやかに立ち上がる。出土遺物はなく、その帰属時期は不明である。

### 第4節 溝状遺構（SD）

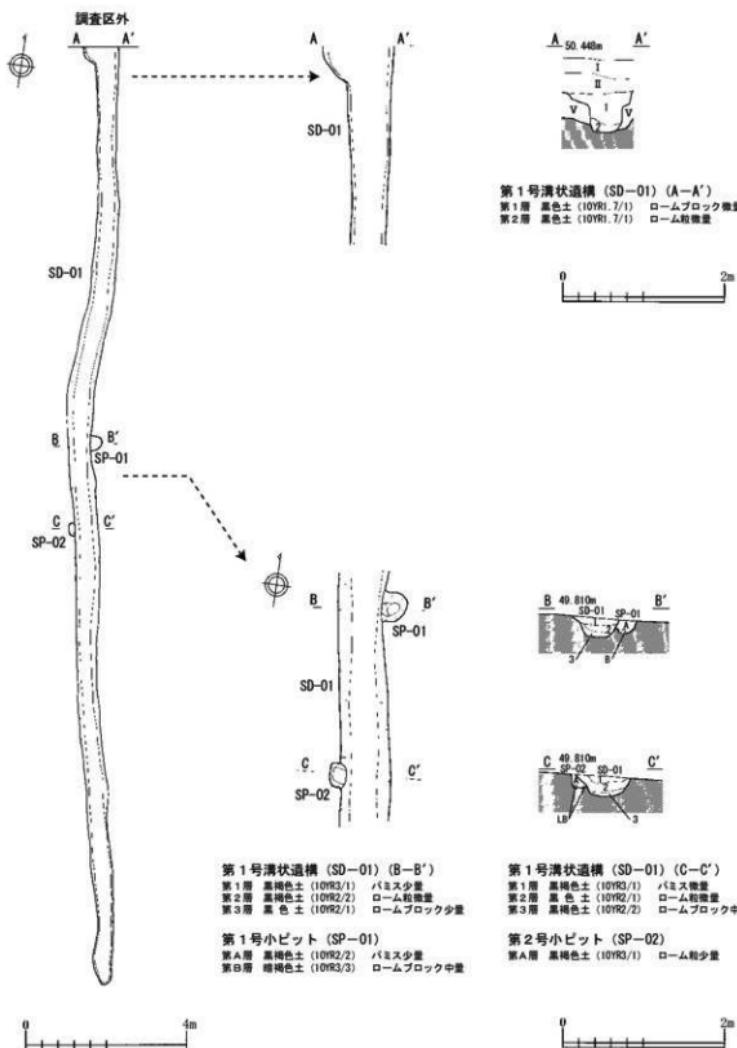
#### 第1号溝状遺構・SD-01（第15図）

D-1～7グリッドに位置する。わずかに蛇行しながら南北方向に延びている。全長23.2m×幅0.6m×深さ0.25mを測り、調査区北壁の層序観察によれば、本来の深さは0.5m程度であった可能性がある。基本層序II層の下面から掘り込まれており、その帰属時期は、堆積土中に流れ込んだ土器片（第13図5・6）よりも新しく、おおむね10世紀前葉以降と想定されよう。SP-01・SP-02をともに切っており、壁面はやや急角度に立ち上がる。また、図面上には表現できていないが、平面形には微細な凹凸があり、構築時の痕跡と考えられる（写真4参照）。本遺構とSD-02は同一遺構と思われ、断続しているのは表土剥ぎの段階で削平されたためであろう。

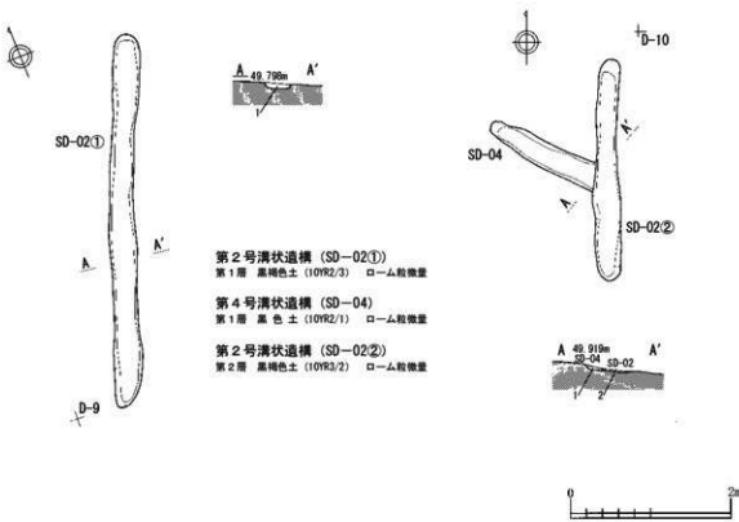
なお、本遺構は、1996年度に行われた野尻(1)遺跡の調査で検出された第2号溝跡（青森県教育委員会1998）と2000年～2002年度調査の本遺跡（浪岡町教育委員会2004）における第7号溝跡の中間に位置し、両溝跡と同一遺構である可能性が高い（第3図参照）。

#### 第2号溝状遺構・SD-02（第16図）

SD-02①はD-8・9グリッド、SD-02②はC-11グリッドに位置するが、SD-01とともに連続する同一遺構と思われ、南北に向かってSD-01の延長線上に延びている。SD-02①は全長4.56m×幅0.36m×深さ0.07m、SD-02②は全長2.76m×幅0.35m×深さ0.03mを測り、壁面はゆるやかに立ち上がる。SD-02②はSD-04を切っているように見えるが、残存部分があまりに少ないため詳細は不明である。帰属時期は、SD-01と同じ10世紀前葉以降と推定されよう。



第15図 溝状遺構(1)



第16図 溝状遺構(2)

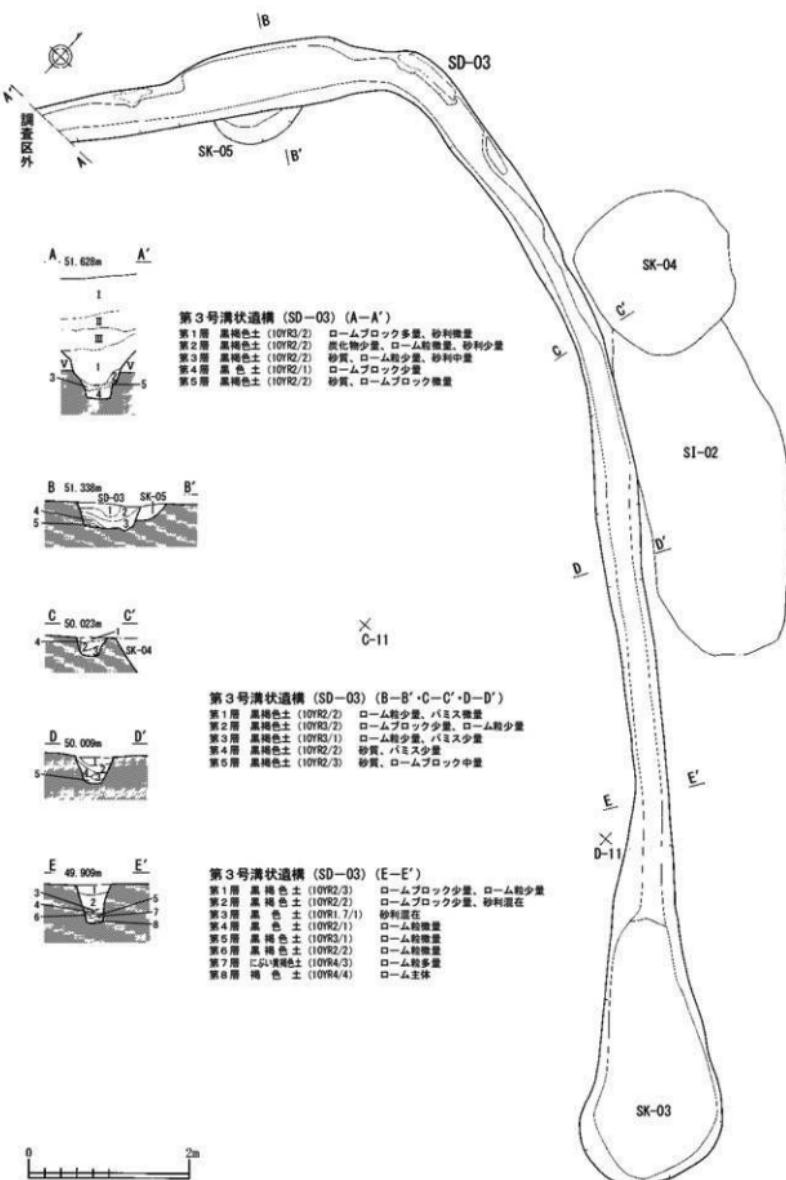
## 第3号溝状遺構・SD-03（第17図）

A・B・C-10、C・D-11、D-12グリッドに位置する。A-10グリッドで大きく東南方向へ屈曲し、SK-03に収束されるような平面形を呈する。全長約19m×幅0.45m×深さ0.6mを測り、屈曲部からSK-03までは約14mである。A-10グリッド付近のみ幅が0.8mまで拡張されている。調査区西側から東側に向かっては約80cmの比高差があり、水路とすれば理に適っているように見えるが、SK-03に収束してしまうことを勘案すると通有の溝状遺構とは思われない。

過去の調査において多く検出されている外周溝とすれば、形態・方位ともに合致するが、規模が若干大きめであること、外周溝内側に竪穴住居跡や掘立柱建物跡の痕跡が皆無であることなど、外周溝と判断してしまうには困難な部分もある。ここでは外周溝の可能性を指摘するにとどめるが、本来の遺構面が本遺跡における遺構確認面である地山ローム(VI層)よりも上位にあったことを踏まえると、竪穴住居跡は削平され、掘立柱建物跡は調査区外に位置しているとも考えられよう。

出土遺物は、土師器杯が3点（第13図1・2・5）、土師器甕が1点（第12図12）、須恵器杯が1点（第12図13）、須恵器甕が2点（第13図3・4）あるが、その様相は周辺遺構と大きな相違はない。

しかし、遺物の出土層位は確認面や覆土上位が主体であり、流れ込みの結果と見れば、遺物の年代がそのまま遺構の年代になるとも限らない。本遺構はSI-02・SK-05を切るように構築されており、周辺遺構よりは若干新しいものと思われ、外周溝を伴う建物跡は過去の調査（浪岡町教育委員会2004）において9世紀末葉～10世紀初頭、隣接する野尻(3)遺跡（青森県教育委員会2006）では10世紀中葉～後葉という年代観が示されている。明確に遺構に伴う遺物がないため詳細は不明であるが、ここでは10世紀初頭～前葉の



第17図 溝状遺構(3)

帰属時期を推定しておきたい。

#### 第4号溝状遺構・SD-04（第16図）

C-11グリッドに位置し、東西に向かって延びている。全長1.14m×幅0.33m×深さ0.04mを測り、壁面はゆるやかに立ち上がる。出土遺物はないが、その帰属時期は隣接するSD-02と大きな相違はないものと思われる。

### 第5節 遺構外出土遺物

C・D-5グリッドに風倒木痕があり、窪みに溜まるように土器が集中して出土した。図示した16点の土師器・須恵器（第13図6～21）は、かかる箇所からまとめて出土した一括遺物である。第13図7は土師器坏であり、体部断面形は丸みを帯びながら若干急角度で立ち上がる。底径は少し広く、底部には右回転の回転糸切痕が観察される。第13図6・8・17・18・20・21も土師器坏の底部であり、右回転の回転糸切痕が観察される。第13図9～12・19は須恵器坏であり、土師器坏と形態的に類似している。周辺のE-4・5グリッドからも土師器坏が1点ずつ出土しており（第13図22・23）、D-5グリッドの一括遺物と同様の年代観が推定される。その所産時期は、ともに10世紀初頭～前葉に比定されよう。

（野坂 知広）

第2表 出土遺物觀察一覽

## ま と め

野尻(4)遺跡は、青森市浪岡大字徳才字山本地内に位置している。倉庫建設工事に先立ち、平成19年7月12日～8月9日の日程で建設予定地（524m<sup>2</sup>）を対象に発掘調査を実施した。

調査の結果、竪穴状造構2基、土坑5基、小ピット9基、溝状造構4条を検出したほか、ダンボール箱換算で3箱分の土師器・須恵器等が出土した。

竪穴状造構は方形・長楕円形の平面形を呈するが、カマド等、竪穴住居跡に類する施設は確認されず、その性格は不明である。土坑も方形・円形の平面形を呈し、やはり用途・機能は判然としない。また、4条検出された溝状造構のうち、第3号溝状造構は本遺跡における過去の調査で多く検出された外周溝を伴う建物跡の可能性が高いが、外周溝内側に配置される竪穴住居跡や柱穴跡は検出されなかった。

出土土器・降下火山灰などから、本調査における検出造構は9世紀後葉～10世紀前葉の帰属時期が推定され、第1号・第2号竪穴状造構（9世紀後葉～10世紀初頭）から第3号溝状造構（10世紀初頭～前葉）への時期的変遷が窺える。かかる見解は、過去の調査成果（青森県教育委員会1995a・浪岡町教育委員会2004）とも整合しており、今回の調査区は本遺跡の集落縁辺に位置するものと想定される。

最後になりましたが、埋蔵文化財保護の趣旨をご理解いただき、本発掘調査実施にあたりご協力賜った株式会社大進建設に対しまして深くお礼申し上げます。

(担当者一同)

### 引用・参考文献

- |            |       |                                      |
|------------|-------|--------------------------------------|
| 青森県教育委員会   | 1987  | 『山本遺跡発掘調査報告書』                        |
| 青森県教育委員会   | 1994  | 『山元(3)遺跡』                            |
| 青森県教育委員会   | 1995a | 『野尻(2)遺跡II・野尻(3)遺跡・野尻(4)遺跡』          |
| 青森県教育委員会   | 1995b | 『山元(2)遺跡』                            |
| 青森県教育委員会   | 1995c | 『野尻(2)遺跡』                            |
| 青森県教育委員会   | 1997a | 『高屋敷館遺跡発掘調査概報』                       |
| 青森県教育委員会   | 1997b | 『垂柳遺跡・五輪野遺跡』                         |
| 青森県教育委員会   | 1998a | 『野尻(1)遺跡I』                           |
| 青森県教育委員会   | 1998b | 『高屋敷館遺跡』                             |
| 青森県教育委員会   | 1999  | 『野尻(1)遺跡II』                          |
| 青森県教育委員会   | 2000  | 『野尻(1)遺跡III』                         |
| 青森県教育委員会   | 2002  | 『野尻(1)遺跡IV』                          |
| 青森県教育委員会   | 2003  | 『野尻(1)遺跡V』                           |
| 青森県教育委員会   | 2004  | 『野尻(1)遺跡VI・野尻(2)遺跡III』               |
| 青森県教育委員会   | 2005a | 『高屋敷館遺跡III』                          |
| 青森県教育委員会   | 2005b | 『山元(1)遺跡』                            |
| 青森県教育委員会   | 2006  | 『野尻(3)遺跡II』                          |
| 青 森 市      | 2006  | 『新青森市史』資料編1(考古)                      |
| 青森市教育委員会   | 2001  | 『新町野遺跡発掘調査報告書II・野木遺跡発掘調査報告書II』       |
| 青森市教育委員会   | 2007a | 『月見野(1)遺跡発掘調査報告書』                    |
| 青森市教育委員会   | 2007b | 『市内遺跡発掘調査報告書15』                      |
| 青森市教育委員会   | 2007c | 『合子沢松森(2)遺跡発掘調査報告書』                  |
| 青森市教育委員会   | 2007d | 『石江遺跡群発掘調査報告書』                       |
| 小山正忠・竹原秀雄  | 1993  | 『新版標準土色帳』農林省農林水産技術会議                 |
| 五所川原市教育委員会 | 2004  | 『五所川原須恵器窯跡群』                         |
| 櫻井清彦       | 1958  | 『東北地方北部における土師器と竪穴に関する諸問題』『館址』東京大学出版会 |
| 浪岡町史編集委員会  | 2000  | 『浪岡町史』第1巻                            |
| 浪岡町教育委員会   | 2004  | 『青森県浪岡町 野尻(4)遺跡』                     |

# 写 真 図 版



調査区全景（南→）



SD-03全景（北西→）

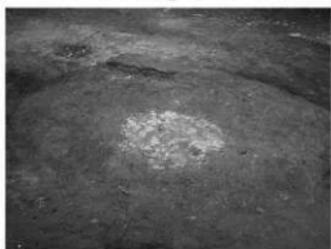
写真1 検出遺構（1）



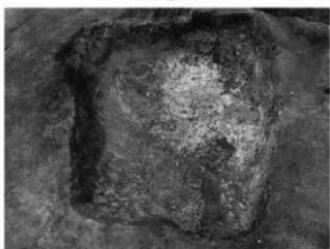
基本層序①（西→）



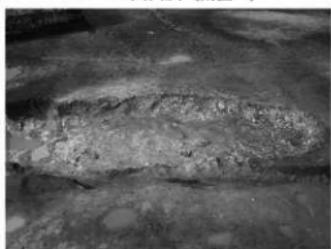
基本層序②（北→）



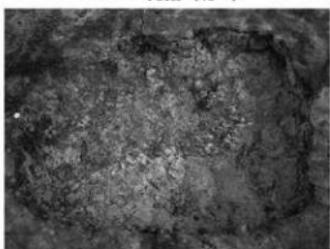
SI-01火山灰（南西→）



SI-01完掘（北→）



SI-02完掘（南→）



SK-01完掘（南→）



SK-02完掘（南→）



SK-03完掘（南東→）

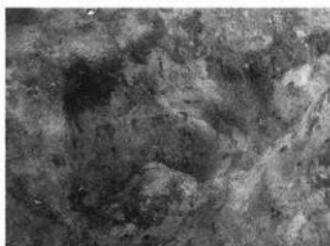
写真2 検出遺構（2）



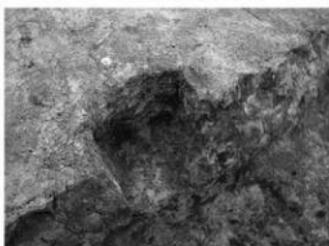
SK-04完掘（北→）



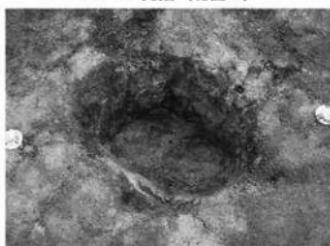
SK-05完掘（西→）



SP-01完掘（北西→）



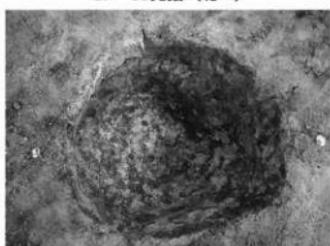
SP-02完掘（南東→）



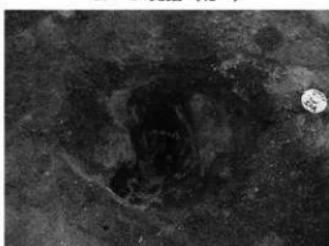
SP-03完掘（北→）



SP-04完掘（北→）

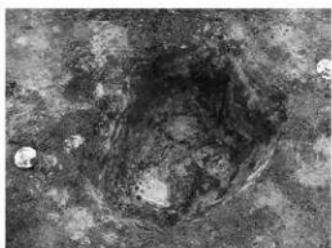


SP-05完掘（北→）



SP-06完掘（北→）

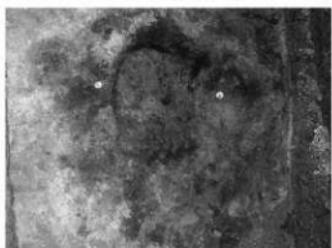
写真3 検出遺構（3）



SP-07完掘（北→）



SP-08完掘（北→）



SP-09完掘（北→）



SD-01完掘（南東→）



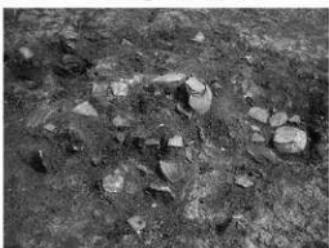
SD-01近景（北西→）



SD-02①完掘（南→）



SD-02②・SD-04完掘（南→）



D-5グリッド土器集中区（北→）

写真4 検出遺構（4）

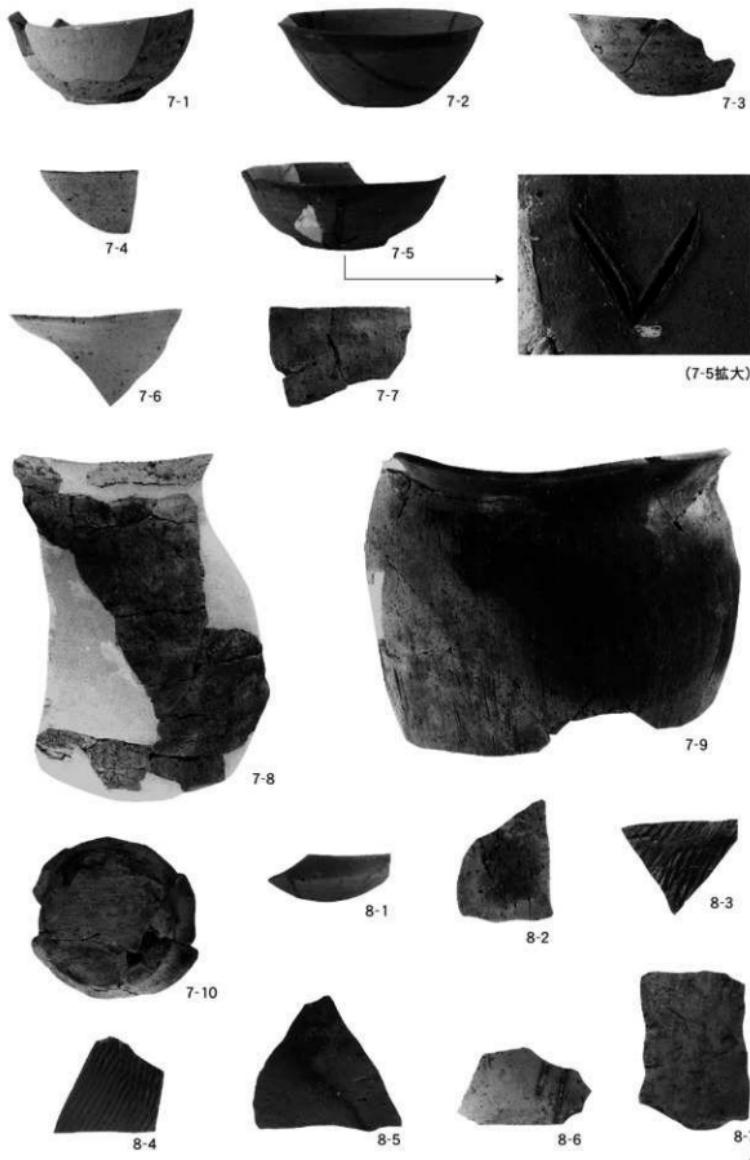


写真5 出土遺物 (1)

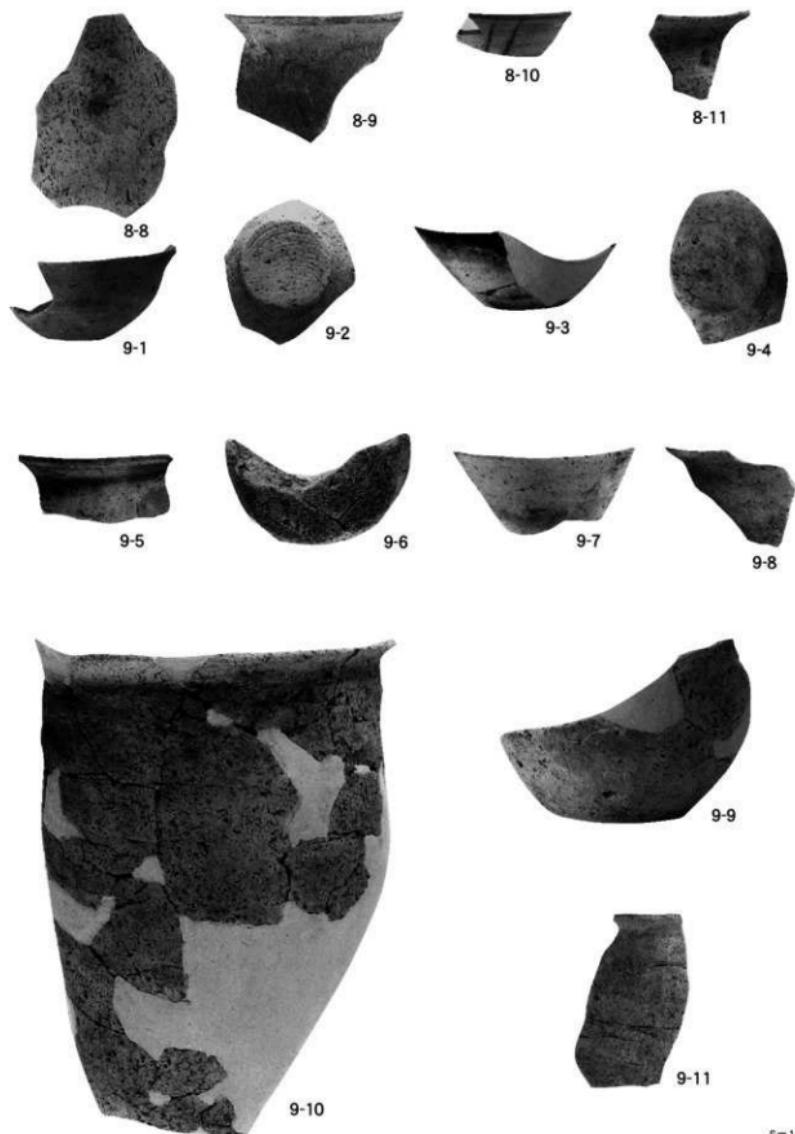
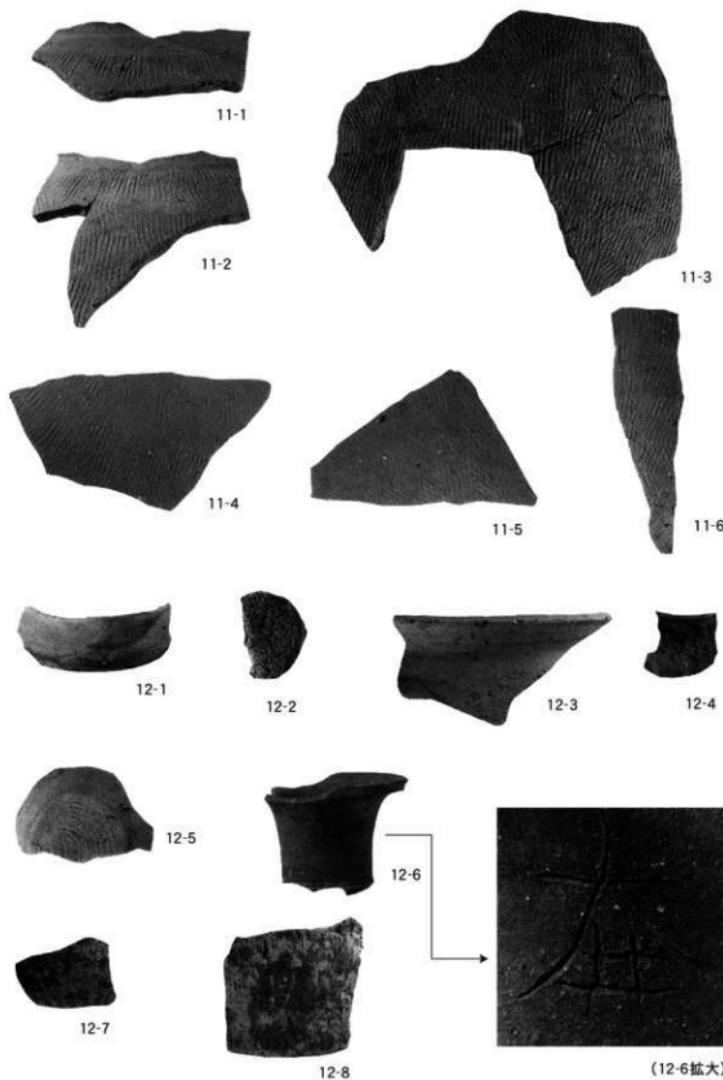
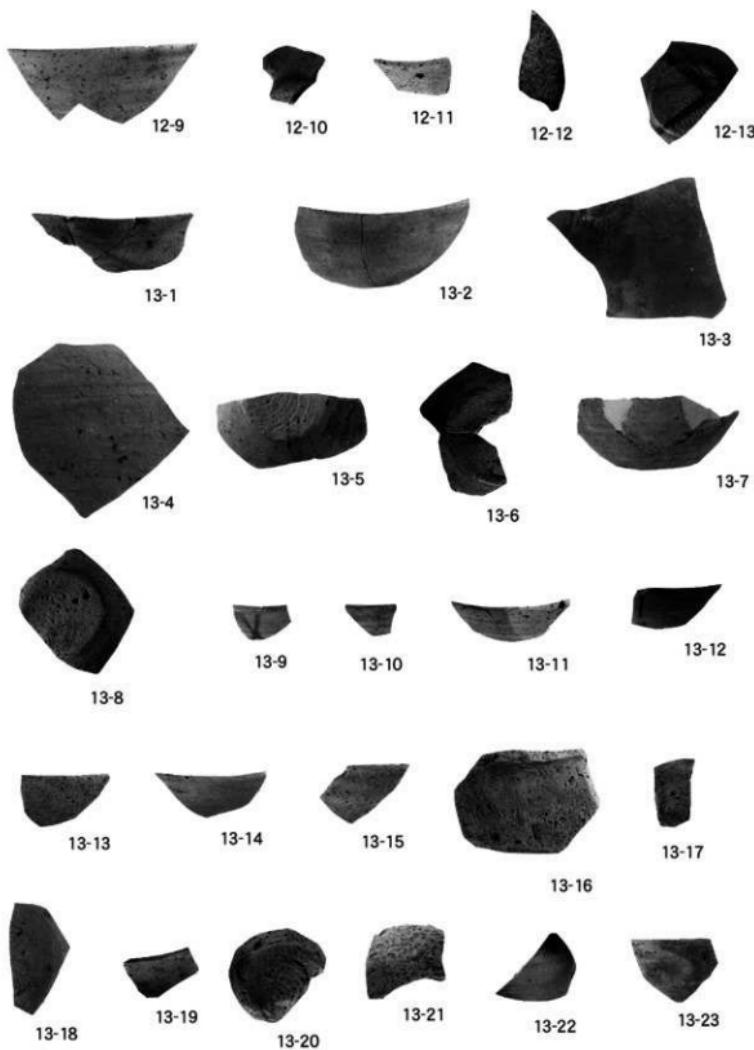


写真6 出土遺物（2）



S=1/3

写真7 出土遺物 (3)



S=1/3

写真8 出土遺物(4)

## 報告書抄録

ふりがな	のじりかっこよんいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	野尻(4)遺跡発掘調査報告書
副書名	
卷次	
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第95集
編著者名	設楽政健、野坂知広
編集機関	青森市教育委員会
所在地	〒038-8505 青森県青森市柳川二丁目1番1号 TEL017-761-4796
発行年月日	西暦2008年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
野尻(4)遺跡	青森県青森市 浪岡大字徳才子字 山本105-2・3	02364	29063	40° 11' 14"	141° 48' 19"	20070712 ～ 20070809	524m <sup>2</sup>	倉庫建設工事に 先立つ事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
野尻(4)遺跡	集落跡	平安時代	竪穴状遺構 土坑 小ピット 溝状遺構	2基 5基 9基 4条	土師器・須恵器

要約	<p>1. 野尻(4)遺跡は、津軽半島にまで連なる前田野目台地上、標高50メートル内外の地点に位置している。</p> <p>2. 発掘調査は倉庫建設予定地524m<sup>2</sup>を対象に実施した。</p> <p>3. 調査の結果、平安時代の竪穴状遺構2基、土坑5基、小ピット9基、溝状遺構4条と土師器や須恵器などの遺物を検出した。主体時期は9世紀後葉～10世紀前葉である。</p>
----	--

# 既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1962	『三内塙遺跡発掘調査概報』	*	第48集	2000	『熊沢遺跡発掘調査報告書』
"	2	1965 『四ツ石遺跡発掘調査概報』	*	第49集	2000	『船山遺跡発掘調査概報Ⅱ』
"	3	1967 『玉水遺跡発掘調査概報』	*	第50集	2000	『小牧野遺跡発掘調査報告書V』
"	4	1970 『玉内丸山遺跡発掘調査概報』	*	第51集	2000	『如意家(1)・雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書』
"	5	1971 『野木と道跡発掘報告書』	*	第52集	2000	『大矢沢野田(1)遺跡発掘報告書』
"	6	1971 『玉水遺跡発掘調査報告書』	*	第53集	2000	『内道跡発掘調査報告書』
"	7	1971 『玉水遺跡発掘調査報告書』	*	第54集	2001	『町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ・野木道跡発掘調査報告書』
"	8	1973 『内道跡発掘調査報告書』	*	第55集	2001	『小牧野遺跡発掘調査報告書VI』
"	1979	『玉水遺跡』	*	第56集	2001	『山内道跡発掘調査報告書Ⅰ』
"	1983	『山内横道跡発掘調査報告書』	*	第57集	2001	『山内道跡発掘調査概報』
青森市の埋蔵文化財	1983	『山野村跡』	*	第58集	2001	『大矢沢野田(1)道跡発掘調査概報Ⅱ』
"	1985	『森遺跡発掘調査報告書』	*	第59集	2001	『山内道跡発掘調査報告書』
"	1986	『山内野道跡発掘調査報告書』	*	第60集	2002	『小牧野道跡発掘調査報告書VII』
"	1987	『山内道跡発掘調査報告書』	*	第61集	2002	『大矢沢野田(1)道跡発掘調査報告書』
"	1988	『三内丸山I・道跡発掘調査報告書』	*	第62集	2002	『山内道跡発掘調査報告書Ⅱ』
青森市埋蔵文化財調査報告書			*	第63集	2002	『山内道跡発掘調査報告書Ⅲ』
"	第16集	1991 『山吹(1)道跡発掘調査報告書』	*	第64集	2002	『山内道跡発掘調査報告書Ⅳ』
"	第17集	1992 『山森文化財出土・道跡調査報告書』	*	第65集	2003	『雲谷山吹(4)～(7)道跡発掘調査報告書』
"	第18集	1993 『三内丸山(2)道跡発掘調査報告書』	*	第66集	2003	『山内道跡発掘調査報告書』
"	第19集	1993 『山内道跡発掘調査報告書』	*	第67集	2003	『如意(3)道跡発掘調査報告書』
"	第20集	1993 『小牧野道跡発掘調査概報』	*	第68集	2003	『近野(2)道跡発掘調査報告書』
"	第21集	1994 『山内道跡詳細分布発掘調査報告書』	*	第69集	2003	『山内道跡発掘調査報告書11』
"	第22集	1994 『山内道跡発掘調査報告書』	*	第70集	2003	『小牧野道跡発掘調査報告書VI』
"	第23集	1994 『三内丸山(2)・小内道跡発掘調査報告書』	*	第71集	2004	『船山遺跡発掘調査報告書IV』
"	第24集	1995 『山内(1)道跡発掘調査報告書』	*	第72集	2004	『山内道跡発掘調査報告書V』
"	第25集	1995 『山内道跡詳細分布発掘調査報告書』	*	第73集	2004	『町野道跡発掘調査概報』
"	第26集	1995 『極巒(2)道跡発掘調査報告書』	*	第74集	2004	『山内道跡発掘調査報告書112』
"	第27集	1996 『極巒(1)道跡発掘調査概報』	*	第75集	2004	『江波道跡発掘調査報告書』
"	第28集	1996 『三内丸山(2)道跡発掘調査報告書』	*	第76集	2005	『山内(3)道跡発掘調査報告書』
"	第29集	1996 『山内道跡詳細分布発掘調査報告書』	*	第77集	2005	『坂井道跡発掘調査報告書』
"	第30集	1996 『小牧野道跡発掘調査報告書』	*	第78集	2005	『三内丸山(8)道跡発掘調査報告書』
"	第31集	1997 『山内道跡詳細分布発掘調査報告書』	*	第79集	2005	『山内道跡発掘調査報告書13』
"	第32集	1997 『極巒(1)道跡発掘調査報告書』	*	第80集	2005	『合子沢松森(2)道跡発掘調査概報』
"	第33集	1997 『新町野道跡発掘調査報告書』	*	第81集	2005	『江波道跡発掘調査概報』
"	第34集	1997 『如意(2)道跡発掘調査報告書』	*	第82集	2006	『三内沢部(3)道跡発掘調査報告書』
"	第35集	1997 『小牧野道跡発掘調査報告書Ⅱ』	*	第83集	2006	『合子沢松森(2)道跡発掘調査概報Ⅱ』
"	第36集	1998 『極巒(1)道跡発掘調査報告書』	*	第84集	2006	『小牧野道跡発掘調査報告書Ⅲ』
"	第37集	1998 『新町野道跡発掘調査報告書』	*	第85集	2006	『小牧野道跡発掘調査報告書Ⅳ』
"	第38集	1998 『小牧野道跡発掘調査報告書』	*	第86集	2006	『山内道跡発掘調査報告書14』
"	第39集	1998 『山内道跡詳細分布発掘調査報告書』	*	第87集	2006	『新町野道跡発掘調査報告書Ⅲ』
"	第40集	1998 『小牧野道跡発掘調査報告書Ⅲ』	*	第88集	2006	『史跡高層階層道跡発掘調査報告書Ⅱ』
"	第41集	1998 『新町野道跡発掘調査概報』	*	第89集	2006	『原野道跡発掘調査報告書』
"	第42集	1998 『極巒道跡発掘調査概報』	*	第90集	2007	『見野(1)道跡発掘調査報告書』
"	第43集	1999 『山内道跡詳細分布発掘調査報告書』	*	第91集	2007	『山内道跡発掘調査報告書15』
"	第44集	1999 『如意(2)道跡発掘調査報告書II』	*	第92集	2007	『新町野道跡発掘調査報告書III』
"	第45集	1999 『小牧野道跡発掘調査報告書IV』	*	第93集	2007	『合子沢松森(2)道跡発掘調査報告書』
"	第46集	1999 『新町野・野木道跡発掘調査概報』	*	第94集	2007	『石江道跡群発掘調査報告書』
"	第47集	1999 『船山道跡発掘調査概報』	*			

## 青森市埋蔵文化財調査報告書 第95集

### 野尻(4)遺跡発掘調査報告書

発行年月日 平成20年3月31日

発 行 青森市教育委員会

〒038-8505 青森市柳川二丁目1番1号

TEL 017-761-4796

印 刷 株式会社 誠 工 社

〒030-0113 青森市第二問屋町三丁目3-18

TEL 017-729-1611